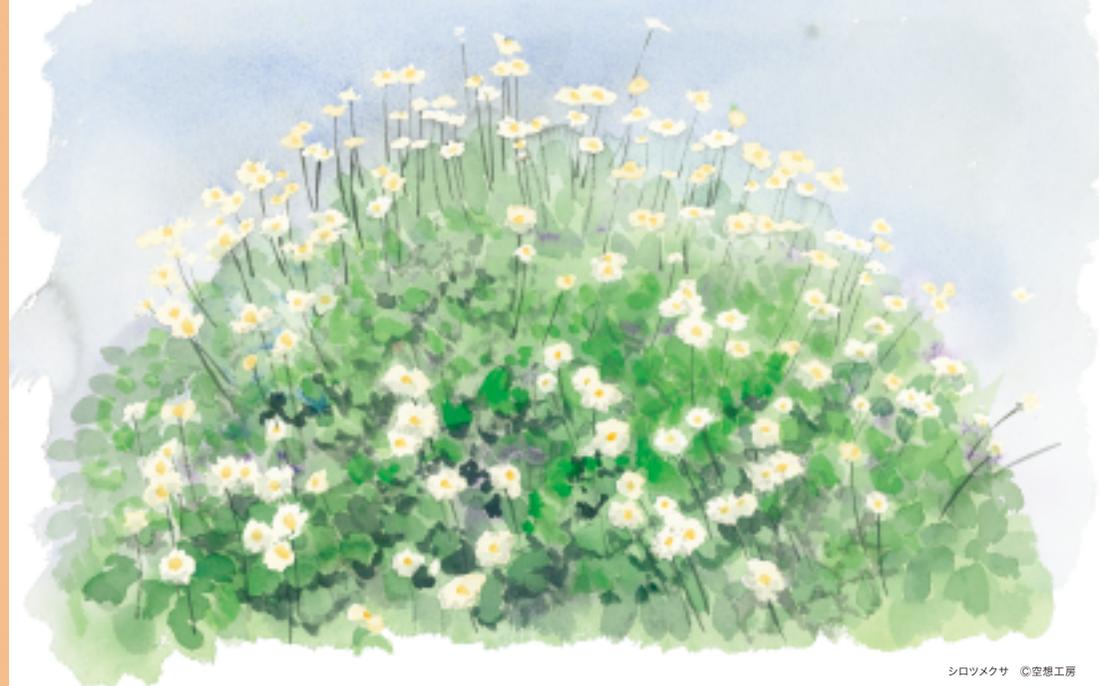


2023年6月7日(水)～9月4日(日)

世界を旅した風景画家

安野光雅 京都御苑の花



シロツメクサ ©空想工房



安野光雅
(あんのみつまさ)
画家。(1926年-2020年)
94才逝去。絵本作家としてデビューとなった「ふしぎなえ」は世界中で大好評となった代表作。

提供：安野光雅美術館

木は美しい、何もしなくても美しい。
それは自然の理にかなっているからで、
わたしたちは、その自然から
「美しさ」というものを教わってきたのである。

——安野光雅

画家・安野光雅の世界が、建築家・安藤忠雄の設計による美術館に広がる



場所 京都府京丹後市久美浜町谷764 和久傳ノ森 TEL・FAX 0772(84)9901



写真：関野欣次

安藤忠雄
(あんだうただお)

建築家。1941年大阪生まれ。代表作に「光の教会」「フォートワース現代美術館」「プンター・デラドガーナ」など。



鉄道利用 京都丹後鉄道 久美浜駅、蜂山駅から丹海バス久美浜線「谷工業団地前」下車、徒歩5分。
和久傳の森におくください。
タクシー 京丹後鉄道 久美浜駅から15分
京丹後鉄道 蜂山駅から25分
JR豊岡駅から35分
お車の方 京都縦貫道京丹後大宮IC下車25分
駐車場 美術館前バス5台、普通車100台
駐車料金 無料



特別展 山本容子銅版画展 2023年6月7日(水)～9月4日(日)

詩画集 プラテローとわたし

詩画集『プラテローとわたし』(波多野睦美訳 2019年刊 理論社)は、スペインの詩人ファン・ラモン・ヒメネスの散文詩と山本容子の銅版画とが織り成す美しい作品集です。本展では、同書に掲載された銅版画の原画を展示します。山本容子は、都会的で軽快洒脱な色彩で、独自の銅版画の世界を確立してきた銅版画家です。絵画に音楽や詩を融合させるジャンルを超えたコラボレーションを展開しています。また、数多くの書籍の装幀、挿画を手がけています。ファン・ラモン・ヒメネス(1881-1958)はスペイン近代文学を代表する詩人のひとりで、1956年にはノーベル文学賞を受賞しています。青年期に心の病を得たヒメネスが静養のために帰郷して、療養生活の日々の中で飼っていたロバの名前がプラテローでした。またこの散文詩には、イタリア生まれの作曲家カステルスオーヴォ・テデスコが作曲したギターと朗読のための28曲があります。この〈詩と音楽と絵〉が一体となった素晴らしい詩画集の世界をお楽しみください。

プラテロー 2019年 ソフトグラウンド・エッチング、アクリル、
パステル、ジェッツ/キャンパス イメージ・サイズ 26x36cm

森の中の家 安野光雅館 コンサート

日時／6月18日(日) 開場12:30 開演13:30～14:30

会場／森の中の家 安野光雅館

メゾピアノ・朗読の波多野睦美さん、ギターの大萩康司さんを迎え、ヒメネスの詩の世界にふれるコンサート。山本容子さんの作品と共にお楽しみください。

定員／70名 (5月17日から受付開始します)

申し込み先／予約制WEB(<https://mori.wakuden.kyoto>)

開館時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで)
休館日 火曜日(祝祭日の場合は翌日休館)
入館料 一般1,000円 中高生600円 小学生400円
会場 森の中の家 安野光雅館
場所 京都府京丹後市久美浜町谷764 和久傳ノ森
(TEL/FAX 0772-84-9901)



写真：荒木大由

山本容子
(やまもとようこ)

和久傳

森の中の家
安野光雅館